

第30回日本刺絡学会学術大会(東京大会) 講演内容詳細

会頭講演 楠本 淳 先生

昭和62年栃木県で起きた医師法違反事件を契機に「このままでは、鍼灸師の手から刺絡がなくなってしまおう」「素問以来の鍼灸の原点といえる刺絡が日本において絶たれてしまおう」という危機感を募らせた有志達の手によって全国刺絡問題懇話会準備会ができました。その後支援の輪が広がり、平成4年に準備会から全国刺絡問題懇話会となり、全国的な組織となりました。平成6年には日本刺絡学会と名称変更し、現在に至っています。

第30回学術大会では、多くの先輩たちが築いてきた日本刺絡学会の足跡を紹介するとともに、井穴刺絡・皮膚刺絡・細絡刺絡・刺絡の適応診断及び緊急時の刺絡治療等の実技と臨床に役立つ刺絡の歴史・衛生・法規等ここでしか見聞することができない貴重な講義をベテラン講師が公開いたします。

衛生 杉山 友彦 先生

東京刺絡鍼法基礎講習会では、長きにわたり医師である杉山先生にご講義を頂いております。リスクマネジメントと銘打っておりますが、いろいろな内容が含まれております。

血液にまつわる古今に渡る捉え方の違いを踏まえ、主に血液が付着する器具や治療室周りの消毒法のコツ、また、先生が関わった鍼灸治療に伴っておこる事故とその後、施術部位や体位から起こす危険性が高い合併症とその予後、など、例年ご講演して頂いております。ドクター視点からの衛生関係のお話はなかなか聞く機会がないと思います。この学術大会の杉山先生のご講演で、我々鍼灸師がどうしたら安全に治療に取り組んで行けるか具体的に再確認する機会となりましたら幸いです。日々の臨床にご活用賜れましたら幸いです。(実行委員長 内山千代筆)

広告に於けるリスクマネジメント 小池 栄治 先生

刺絡鍼法は観血療法と言われますが、血を出すことは目的ではありません。ネット時代では、それが独り歩きしてしまうと無用なリスクが生じる恐れがあります。そんなリスクが生じる原因や背景についてお伝えしたいと思います。

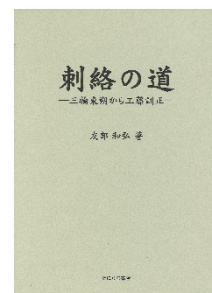
井穴刺絡実技 工藤 哲也 先生

井穴刺絡の基本的な絞り方と効果、意義などを説明しながらの実技です。

皮膚刺絡実技 友部 和弘 先生

皮膚刺絡について生命維持の根本は血液循環による物質交換である。そこに働きかけるのが正に刺絡治療といえよう刺絡の目的は、末梢循環障害を改善し全身の血液循環を良好にすることで恒常性の維持回復を図り自然治癒力を向上させる。さらには出血というストレスを毎回与えることで防御機能を最大限に高めることにある。皮膚刺絡は日中伝統医学の歴史上ほとんど行われていない。しかしその効果は抜群である。一般の人は血液循環の話をするとう大血管を思い浮かべる。また専門家においては動脈の話が多い。しかし循環障害は皮膚表層にある毛細血管と細静脈の領域からはじまる。すなわち循環障害の改善とは還流血液を

順調にすることであり、そこに貢献するのが刺絡である末梢血管は 0.00 何ミリという極細で血圧もほとんどなく密集した血管内は飽和状態で流れられない。刺絡をすることでスペースが生まれ流動可能となる。古典にも「1 箇所通ずれば 100 箇所通ず」とあるごとく、かなりの広範囲に好影響を与えることになる。よって刺絡部位は少なくすむ。刺絡の効果は、凝りの軽減や疼痛の緩和などがあげられるが、最大の魅力は内部環境に作用することにある。古くは脳卒中に対して肩背部の刺絡が救命救急療法として用いられていたことから、臓腑や器官の血流に大きな影響を与えることが知られる。これが、恒常性の維持回復につながる所以である皮膚刺絡の際に吸角を常用するが、決して大量に採血するためのものではない。皮膚浅層の微小循環を刺切するために陰圧をかけなければ出血しないからである。安全に効果的な刺絡を行うための必需品である。また吸角をかけたときにできる溢血斑の色によって、体調を客観的に知ることができる。刺絡による血液性状とともに身体の善し悪しを判断するうえで誠に役に立つ刺絡後に灸頭針を行うと効果は倍増する。循環障害の圧倒的な原因は冷えであり刺絡と同様に毎回温めることで温かい身体になる。温めて循環を良くするという考え方もあるが、循環のわるい身体は所詮温まらない。やはり刺絡後がよい。具体的な背部の刺絡部位は項部・大椎の両房・身柱の両房・膈俞・胃俞である。これですべての内臓をおさえることができる。特に肩甲間部の刺絡は手足の末端刺絡とともに最重要部位である。単に苦痛症状の緩和だけに刺絡を用いるのではなく、定期的に行い恒常性の維持回復を目的に徹底した健康管理と予防法として活用すれば、真の国民健康法に多大な貢献ができるに違いない。※自著『刺絡の道—三輪東朔から工藤訓正』より一部引用。



『刺絡の道』友部和弘著
たにぐち書店 3,850 円(税込)

細絡刺絡実技 間 純一郎 先生

人類の有する各種医療の中で、(広義の)瀉血療法は最も長い歴史を持つものの一つで、広く東西両半球で行われてきました(19 世紀初頭までは西洋医療でも中核として)。そのなかで古代中国においてのみ、金属加工生産と理論体系の洗練と共に刺絡鍼法として発展を遂げました。総じて言えば、最小限の刺激と出血量で最大限の効果をあげるカタチへとです。日本においてはさらに「細絡」と呼ばれる肉眼的に透見されるある種の血管腫を対象とした刺絡法が誕生していきました。当日は、日本独自である細絡刺絡の基本的な説明とともに実際のやり方を紹介させていただきます。

刺絡治療に於ける適応診断と緊急時の刺絡治療 石原 克己 先生

実技講演内容

1. 刺絡治療に於ける適応、不適応、禁忌

2. 緊急時に於ける刺絡治療

(1) 高熱(大椎、十宣、鼻咽喉鍼)

(2) 急性副鼻腔炎(鼻咽喉鍼)

(3) 狭心症発作(右然谷)

(4) 中風(鼻咽喉鍼、舌尖)

(5) 目の充血(耳尖)

(6) その他(痛みを伴う疾患など)

臨床に使える刺絡の歴史 関 信之 先生

臨床に役立つ歴史? そう思ったあなたは歴史好きとみえました。歴史といえば、かつては刺絡に関わる医者の話、刺絡が書かれた本の話などをして来ました。でもそれは興味ないのですよね? みんな臨床の話聞きたい訳だから。

かつて大貫先生は、臨床から見た古典を追求されていました。私の古典に対するアプローチも全く同じです。その原点に戻ってお話ししようと思います。